横断歩道橋に関する
調査表記入マニュアル

〔Ｄ０３０〕　横 断 歩 道 橋 基 本

この調査表は、横断歩道橋の主要な諸元（形式、延長、幅員、通学路指定、安全施設等）に関するデータを登録するためのものである。なお、交差点に設置されている場合、上級の道路に設置されているものとして取扱う。

（国道どうしの交差点の場合、路線番号の小さい方を上級の道路として取扱う。）

１．一般的注意事項

（１）データは次の単位で作成する。

○　構造的にみて一体である横断歩道橋一橋毎とする。

（２）横断歩道橋に関する写真・図面類については「D031横断歩道橋図面類」にて作成する。

（３）横断歩道橋に関する塗装履歴については「D032横断歩道橋塗装歴」にて作成する。

（４）横断歩道橋に関する補修履歴については「D033横断歩道橋補修歴」にて作成する。

２．記入事項

（１）工事番号

（２）工事区分Ｃ

（３）施設対応番号

（Ｃ）地整Ｃ

（Ｄ）事務所Ｃ

（Ｅ）出張所Ｃ

（Ｆ）路線

（Ｇ）現旧区分Ｃ

（Ｈ）整理番号１

（Ｉ）整理番号２

（Ｊ）整理番号３

（Ｎ）補助番号

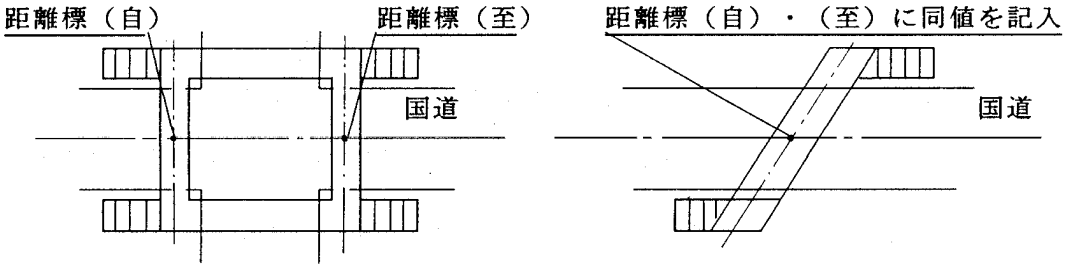
上記（１）、（２）、（３）、（Ｃ）、（Ｄ）、（Ｅ）、（Ｆ）、（Ｇ）、（Ｈ）、（Ｉ）、（Ｊ）、（Ｎ）の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。

（P）名称：◆

該当する横断歩道橋の名称を、２０文字以内の日本語（漢字、ひらがな、カタカナ、及び英数字）で記入する。名称がない場合は、設置箇所の地先名等を記入する。

（Q）百米標自（km）

架橋地点の距離標（百米標）を記入する。記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。



（R）距離自（m）

架橋地点の距離標（百米標）からの距離を記入する。記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。

（S）百米標至（km）

架橋地点の距離標（百米標）を記入する。記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。

（T）距離至（m）

架橋地点の距離標（百米標）からの距離を記入する。記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。

（U）所在地：◆

該当する区間の所在地（字番地まで）について、３０文字以内の日本語で記入する。

（X）施設完成年度

施設が完成した年度を記入する。（年は和暦を記入）

年号コードについては、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。

（記入例）　昭和６１年　　———>　　３６１

↑

年号コード（３：昭和）

（Y）施設改修年度：◆

施設を改修した年度を記入する。（年は和暦を記入）

年号コードについては、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。施設の改修がなされていない場合は‘＊’を記入する。

（記入例）　平成　５年　　———>　　４０５
↑
年号コード（４：平成）

（Z）歩道橋種別C

歩道橋種別区分について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
歩行者専用歩道橋	1
自転車専用歩道橋	2
自転車歩行者専用歩道橋	3
そ　の　他	9

(AL) 昇降形式C：◆

昇降形式区分について、該当するコードを記入する。一橋に複数の昇降形式がある場合には代表的なものを記入する。

区　　分	コード
階　段　式	1
押　上　式	2
スロープ式	3
そ　の　他	9

注）

注）押上げ式とは、階段の一部に斜路を設けて（斜路付階段）自転車を押し上げるものをいう。また、スロープと階段が併設されたものは、スロープ式に含む。

(AN) 上部工構造形式Ｃ：◆

上部構造形式について、該当するコードを記入する。なお複数の形式がある場合には代表的なものを記入する。

区　　分		コード	区　　分		コード
大分類	小分類		大分類	小分類	
床版橋		１０	ラーメン橋		５０
桁　　橋		２０	斜張橋		６０
	Ｉ　　桁	２１		Ｉ　　桁	６１
	Ｉ桁(合成)	２２		箱　　桁	６２
	Ｈ　　桁	２３		トラス	６３
	H桁(合成)	２４			
	箱　　桁	２５	吊　　橋		７０
	箱桁(合成)	２６		Ｉ　　桁	７１
	Ｔ　　桁	２７		箱　　桁	７２
トラス橋		３０		トラス	７３
アーチ橋		４０			
	アーチ	４１			
	ランガー	４２			
	ローゼ	４３			

(AP) 上部工材料Ｃ：◆

上部工（床版を除く）の使用材料について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード	区　　分	コード
鋼（鉄）リベット橋	1	石　　橋	6
鋼溶接橋	2	木　　橋	7
ＳＲＣ橋	3	Ｈ型橋	8
Ｒ　Ｃ　橋	4	そ の 他	9
Ｐ　Ｃ　橋	5		

(AR) 床版材料Ｃ：◆

上部工のうち床版の使用材料について、該当するコードを記入する。（代表的なもので記入）

区　　分	コード
鋼　　系	1
コンクリート系	2
そ　の　他	9

(AT) 下部工形式Ｃ：◆

下部工（躯体）形式について、該当するコードを記入する。（代表的なもので記入）

区　　分		コード	区　　分		コード
重力式橋台		１１	Ｔ型橋脚(柱円型)	（ＲＣ）	５４
小橋台		１２		（ＳＲＣ）	５５
その他（橋台）		２０		(鋼製)	５６
壁式橋脚	（ＲＣ）	３１	Ｔ型橋脚(柱小判)	（ＲＣ）	５７
	（ＳＲＣ）	３２		（ＳＲＣ）	５８
	(鋼製)	３３		(鋼製)	５９
柱橋脚	（ＲＣ）	４１	ラーメン橋脚	（ＲＣ）	６１
	（ＳＲＣ）	４２		（ＳＲＣ）	６２
	(鋼製)	４３		(鋼製)	６３
柱橋脚（円柱）	（ＲＣ）	４４	柱橋脚（角柱）	（ＲＣ）	７１
	（ＳＲＣ）	４５		（ＳＲＣ）	７２
	(鋼製)	４６		(鋼製)	７３
柱橋脚（小判柱）	（ＲＣ）	４７	Ｔ型橋脚(柱角型)	（ＲＣ）	７４
	（ＳＲＣ）	４８		（ＳＲＣ）	７５
	(鋼製)	４９		(鋼製)	７６
Ｔ型橋脚	（ＲＣ）	５１	その他（橋脚）		９９
	（ＳＲＣ）	５２			
	(鋼製)	５３			

注）

注）柱橋脚と壁式橋脚の区分は、躯体部の短辺（厚さ）と長辺（幅）の比が１：３未満の場合は、「柱橋脚」１：３以上の場合は「壁式橋脚」とする。

(AV) 基礎形式Ｃ：◆

基礎形式について、該当するコードを記入する。（代表的なもので記入）

区　　分	コード	区　　分	コード
直接基礎	１１	既製ＲＣぐい	６１
オープンケーソン	２１	既製ＰＣぐい	７１
ニューマチックケーソン	３１	木 ぐ い	８１
場所打ちぐい（深礎を含む）	４１	既製ＰＨＣぐい	８２
既製鋼ぐい	５１	そ の 他	９９

(AX) 敷地協定有無Ｃ

敷地協定の有無について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
敷地協定無し	1
敷地協定有り	2

(AZ) 完成年次：◆

完成年次について記入する。（年は和暦を記入）

年号コードについては、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1. 共通注意事項」を参照のこと。

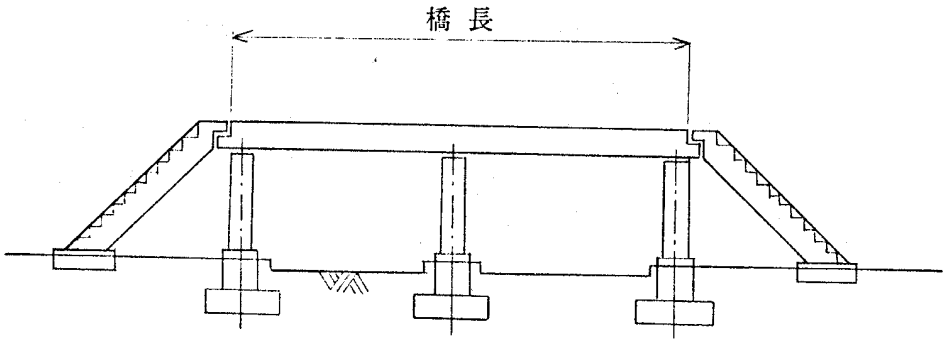
（記入例）　大正１０年　　———>　　２１０

↑

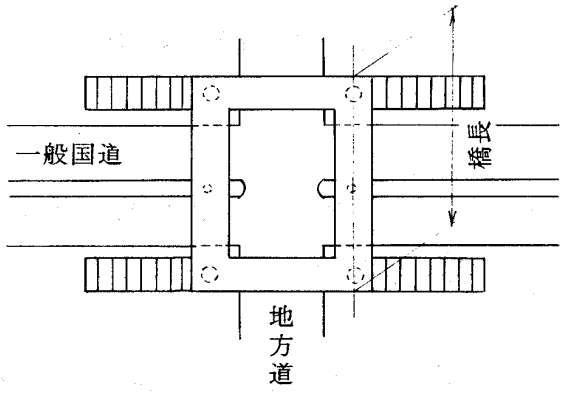
年号コード（２：大正）

(BA) 橋長（m）：◆

桁端間の距離を橋長とし小数点以下１位まで記入する。

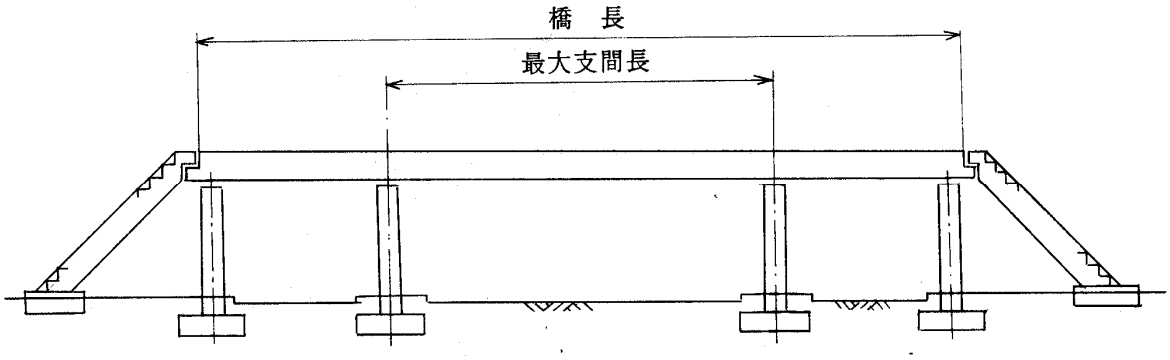


交差点において、下図のように結合しているものは、上図にならい最大の橋長を記入する。



(BB) 最大支間長（m）

１橋の中で最大の支間長を、小数点以下１位まで記入する。

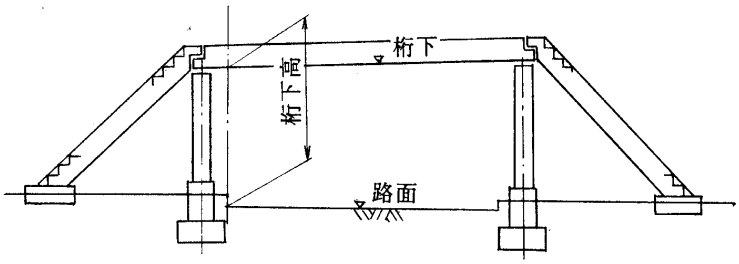


(BC) 径間数

１橋を構成している径間数を記入する。

(BD) 桁下高（m）：◆

歩道橋の桁下から路面までの高さの最小高を、小数点以下１位まで記入する。



（記入例）　ｈ＝３．６６ｍ　――＞　３．７

(BE) 幅員（m）：◆

昇降部分を省く橋面部の幅員を、小数点以下１位まで記入する。幅員の定義は、地覆がある場合には地覆内面間の距離、地覆がない場合には高欄内面間の距離とする。

（記入例）　Ｂ＝５．５５ｍ　―――＞　５．６

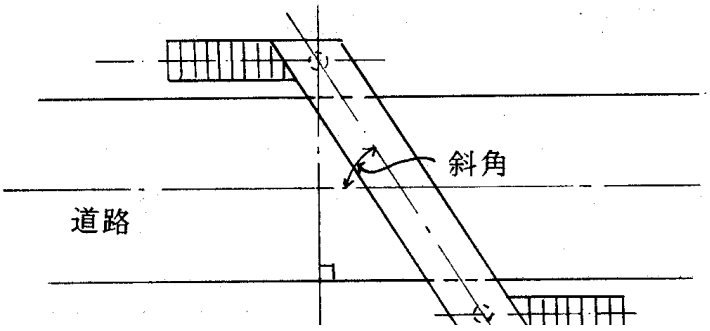
(BF) 橋面積（㎡）

幅員×橋長の値を橋面積として、小数点以下１位まで記入する。

（記入例）　Ａ＝３８５．４５㎡　―――＞　３８５．５

(BG) 斜角（度）

歩道橋の道路に対する交差角を記入する。また、記入する角度は最鋭角を記入すること。



(BH) 適用示方書Ｃ：◆

設計で主に用いた示方書類について代表的なものを選定し、該当するコードを記入する。

区　　分		コード
大正１５年示方書		１０
昭和１４年　〃		２０
昭和３１年　〃		２１
昭和３９年　〃		２２
同上および昭和４２年９月９日道路局長通達「鋼道路橋の一方鉄筋コンクリート床版の配力鉄筋の設計について」		２３
昭和４７年示方書		２４
同上および昭和４８年４月２５日都市局長道路局長通達「特定の路線にかかる橋、高架の道路等の技術基準について」		２５
昭和５３年示方書	コンクリート橋編	２６
昭和５５年示方書	共通編 鋼橋編 下部構造編 耐震設計編	２７
平成元年示方書	共通編 鋼橋編 コンクリート橋編 下部構造編 耐震設計編	９０
立体横断施設技術基準・同解説		５１
平成６年示方書	共通編 鋼橋編 コンクリート橋編 下部構造編	６１
平成８年示方書	共通編 鋼橋編 コンクリート橋編 下部構造編 耐震設計編	６５
平成14年示方書	共通編 鋼橋編 コンクリート橋編 下部構造編 耐震設計編	６６
その他		９９

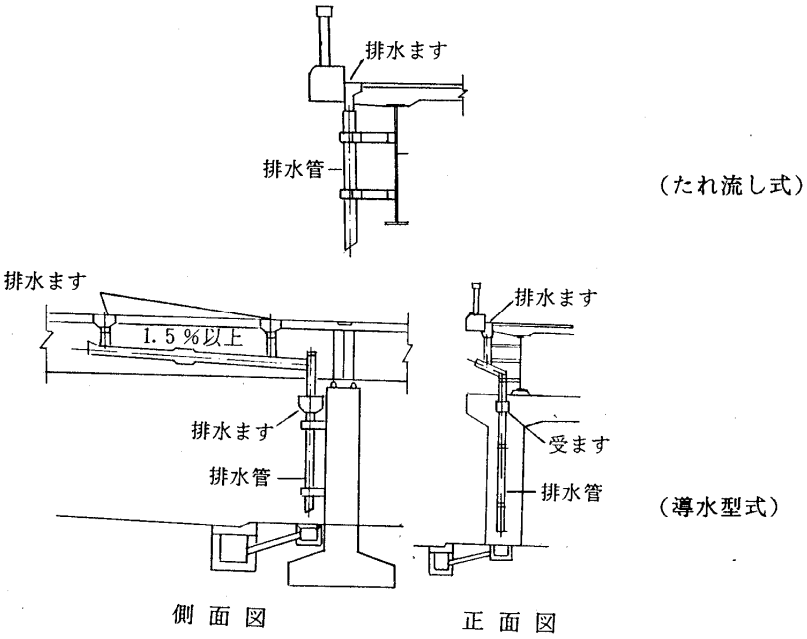
(BJ) 設計震度

設計震度（Ｋｈ）を記入する。

(BK) 排水形式C

排水型式について、該当するコードを記入する。（代表的なもので記入）

区　　分	コード
たれ流し型式	1
導 水 型 式	2
そ　の　他	9



(BM) 本体塗装面積（㎡）：◆

横断歩道橋の本体の塗装面積を、小数点以下１位まで記入する。

(BN) 高欄塗装面積（㎡）：◆

横断歩道橋の高欄の塗装面積を、小数点以下１位まで記入する。

(BO) 現場塗装面積（㎡）：◆

横断歩道橋の現場の塗装面積を、小数点以下１位まで記入する。

(BP) 塗装色：◆

塗装色について代表的なものを選定し、日本塗装工業会の定めるコードを記入する。

（記入例）　緑　――――――――――>　Ａ１２－６３７

ライトグレー　――――>　Ｈ１－１００３

(BQ) 地覆幅（cm）

横断歩道橋の地覆幅について記入する。

(BR) 地覆高さ（cm）

横断歩道橋の地覆の高さ（路面からの高さ）について記入する。

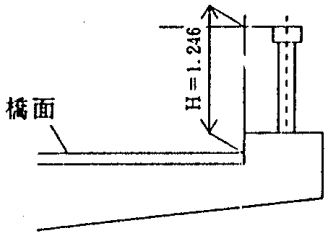
(BS) 高欄材質構造形式C

高欄または防護柵の材質及び構造形式について、該当するコードを記入する。（代表的なもので記入）

区　　分	コード	区　　分	コード
ガードレール（鋼製）	１１	壁式（コンクリート）	２１
ガードパイプ（鋼製）	１２	オートガード（コンクリート）	２２
ボックスビーム（鋼製）	１３	その他（コンクリート）	２９
ガードケーブル	１４	アルミ高欄	３１
その他（鋼製）	１９	その他	９９

(BU) 高欄高さ（m）

高欄または防護柵の橋面上からの高さを、小数点以下２位まで記入する。



(BV) 舗装種別C

横断歩道橋の橋面部の舗装種別について、該当するコードを記入する。（代表的なもので記入）

区　　分	コード	区　　分	コード
アスファルト系	1	インターロッキング系	6
コンクリート系	2	透水性As系	7
平板ブロック系	3	排水性As系	8
樹　　脂　　系	4	そ　の　他	9
Asブロック系	5		

注）

注）Asはアスファルトを言う。

(BX) 舗装厚さ（cm）

横断歩道橋の橋面部の舗装厚を記入する。（タイルの場合は、‘＊’を記入）

(BY) 舗装面積（㎡）

横断歩道橋の橋面部の舗装面積を、小数点以下１位まで記入する。

(BZ) 伸縮継手型式Ｃ

伸縮継手型式について、該当するコードを記入する。（代表的なもので記入）

区　　分	コード	区　　分	コード
盲目地型式（不明）	１０	ゴムジョイント型（不明）	４０
盲目地	１１	ハマハイウェイジョイント	４１
切削目地	１２	コル及びブロフジョイント	４２
		ネオスミジョイント	４３
突き合わせ先付型（不明）	２０	エースジョイント	４４
目地板ジョイント	２１	ＦＫジョイント	４５
アングル補強ジョイント	２２	３Ｓジョイント	４６
補剛鋼材ジョイント	２３	マウラージョイント	４７
		トランスフレックス	４８
突き合わせ後付型（不明）	３０	ホーネルジョイント	７１
カットオフジョイント	３１	ワーボフレックス	７２
カップリングジョイント	３２	その他	４９
ハマハイウェイジョイント	３３		
ＳＢラバージョイント	３４	鋼製型式（不明）	５０
ＳＢスチールジョイント	３５	鋼フィンガージョイント	５１
グライディングジョント	３６	鋼重ね合わせジョイント	５２
フェルスパン	３７		
ハードトップジョイント	３８	その他　特殊型式	９９
ラバートップジョイント	６１	（デマーク式等）	
メタルトップジョイント	６２		
ブロフジョイント	６３		
マウラージョイント	６４		
ガイトップジョイント	６５		
その他	３９		

(CB) 沓固定Ｃ

(CD) 沓可動Ｃ

上記（CB）、（CD）については、固定支承と可動支承について、該当するコードを記入する。

（代表的なもので記入）

区　　分	コード
固定支承	１０
線支承	１１
ピン支承	１２
ピボット支承	１３
コンクリートヒンジ支承	１４
支承板支承	１８
ゴム支承	１９
可動支承	２０
線支承	２１
１本ローラー支承	２５
複数ローラー支承	２６
ロッカー支承	２７
支承板支承	２８
ゴム支承	２９
その他	９９

(CF) 落橋防止施設有無ａＣ

落橋防止施設有無ａとは、支承の移動制限装置を示す。

(CH) 落橋防止施設有無ｂＣ

落橋防止施設有無ｂとは、けた端から下部構造頂部縁端までのけたの長さの確保を示す。

(CJ) 落橋防止施設有無ｃＣ

落橋防止施設有無ｃとは、けたと下部構造を連結する構造を示す。

(CL) 落橋防止施設有無ｄＣ

落橋防止施設有無ｄとは、けたまたは下部構造に突起を設ける構造を示す。

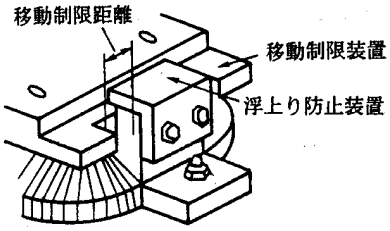
(CN) 落橋防止施設有無ｅＣ

落橋防止施設有無ｅとは、２連のけたを相互に連結する構造を示す。

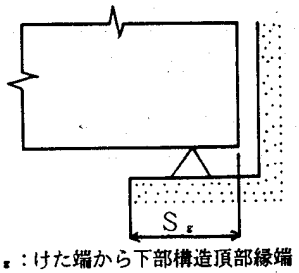
上記（CF）～（CN）については、各々の落橋防止施設の有無について該当するコードを記入する。

区　　分	コード
該当する施設なし	0
該当する施設あり	1

1. 落橋防止構造の種類

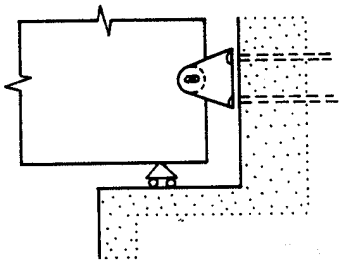


a）支承の移動制限装置

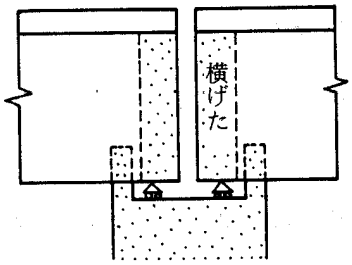


Sg：けた端から下部構造頂部縁端までのけたの長さ

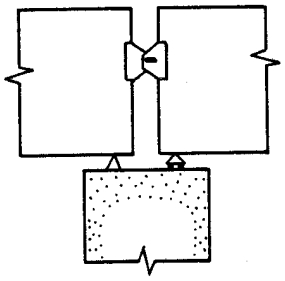
b）けた端から下部構造頂点縁端までのけたの長さの確保



c）けたと下部構造を連結する構造



d）けたまたは下部構造に突起を設ける構造



e）2連のけたを相互に連結する構造

(CP) 上屋有無C：◆

横断歩道橋の上屋の有無について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
上屋施設なし	0
上屋施設あり	1

(CS) 手すりC

(CU) すべり止めC

(CW) 目かくし板C

(CY) 身障者用施設C

(DA) 防犯施設C

(DC) エスカレータ有無C：◆

上記（CS）～（DC）については、安全施設の有無について該当するコードを記入する。

区　　分	コード
該当する施設なし	0
該当する施設あり	1

(DE) エスカレータ基数：◆

エスカレータの施設がある場合は、エスカレータの基数を記入する。エスカレータがない場合は‘＊’を記入する。

(DF) エスカレータ占用別Ｃ：◆

エスカレータの施設がある場合は、エスカレータの占用別について、該当するコードを記入する。エスカレータがない場合は‘＊’を記入する。

区　　分	コード
占　用	1
自管理	2

(DH) エレベータ有無Ｃ：◆

エレベータの有無について、該当するコードを記入する。

上記（CS）～（DC）のコード表と同様。

(DJ) エレベータ基数：◆

エレベータの施設がある場合は、エレベータの基数を記入する。エレベータがない場合は‘＊’を記入する。

(DK) エレベータ占用別Ｃ：◆

エレベータの施設がある場合は、エレベータの占用別について、該当するコードを記入する。エレベータがない場合は‘＊’を記入する。

(DF) エスカレータ占用別Ｃのコード表と同様。

(DO) 上屋占用物件別Ｃ：◆

上屋の施設がある場合は、上屋の占用別について、該当するコードを記入する。上屋がない場合は‘＊’を記入する。

(DF) エスカレータ占用別Ｃのコード表と同様。

(DQ) 通学路指定有無Ｃ

通学路指定の有無について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
通学路指定無し	1
通学路指定有り	2

(DS) 通学路指定年月日

通学路指定がある場合、指定になった年月日を記入する。（年は西暦年で記入）

通学路指定がない場合は‘＊’を記入する。

（記入例）　１９８４ 年　5月　5日　　———>　　１９８４０５０５

(DT) 管理協定有無Ｃ

管理協定の有無について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
管理協定無し	1
管理協定有り	2

(DV) 協定年月日

管理協定がある場合、管理協定がなされた年月日を記入する。（年は西暦年で記入）

管理協定がない場合は‘＊’を記入する。

（記入例）　１９８４年　3月１５日　　———>　　１９８４０３１５

(DW) 協定先名

協定管理者名を１５文字以内の日本語で記入する。

管理協定がない場合は‘＊’を記入する。

(DX) 照明有無Ｃ

照明の有無について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
無　　し	0
有　　り	1

(EC) ロードヒート有無Ｃ

歩道橋に設置されているロードヒーティングの有無について、該当するコードを記入する。

(DX) 照明有無Ｃのコード表と同様。

(EH) 消雪パイプ有無Ｃ

道橋に設置されている消雪パイプの有無について、該当するコードを記入する。

(DX) 照明有無Ｃのコード表と同様。

(EM) 備考

特記事項があれば５０文字以内の日本語で記入する。

(EN) 市区町村自Ｃ：◆

該当する区間の始点側の市区町村名のコードを記入する。使用するコードは「全国市町村要覧」を参照し、「都道府県市区町村コード」を記入する。

（記入例）　茨城県鹿島郡旭村の場合　———>　コード：０８４０１
（検査数字は含まない）

(EP) 市区町村至Ｃ：◆

該当する区間の終点側の市区町村名のコードを記入する。使用するコードは「全国市町村要覧」を参照し、「都道府県市区町村コード」を記入する。

（記入例）　茨城県鹿島郡大洋村の場合　———>　コード：０８４０３
（検査数字は含まない）

〔Ｄ０３２〕　横 断 歩 道 橋 塗 装 歴

この調査表は、横断歩道橋の再塗装（塗装履歴）に関するデータを登録するためのものである。

１．一般的注意事項

データは次の単位で作成する。

○　「D030横断歩道橋基本」の作成単位毎とする。

○　過去において塗装履歴がある場合、再塗装が行われた場合、上部工，下部工毎に作成する。

２．記入事項

（１）工事番号

（２）工事区分Ｃ

（３）施設対応番号

（Ｃ）地整Ｃ

（Ｄ）事務所Ｃ

（Ｅ）出張所Ｃ

（Ｆ）路線

（Ｇ）現旧区分Ｃ

（Ｇ－１）現旧区分

（Ｈ）整理番号１

（Ｉ）整理番号２

（Ｊ）整理番号３

（Ｎ）補助番号

上記（１）、（２）、（３）、（Ｃ）、（Ｄ）、（Ｅ）、（Ｆ）、（Ｇ）、（Ｇ－１）、（Ｈ）、（Ｉ）、（Ｊ）、（Ｎ）の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1．共通注意事項」を参照のこと。

（Ｐ）上下部工区分Ｃ

上・下部工に関するデータの作成区分について、該当する区分コードを記入する。

区　　分	コード
上　部　工	1
下　部　工	2

（R）塗装年月：◆

再塗装を行った年月を記入する。（年は西暦年で記入）

（記入例）　１９８８年　８月　　―――>　　１９８８０８

（S）下塗塗料C

下塗り塗料について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
長ばく型エッチングプライマー	１１
短ばく型エッチングプライマー	１２
有機質ジングリッチプライマー	１３
無機質ジングリッチプライマー	１４
塩化ゴム系プライマー	１５
エポキシ樹脂プライマー	１６
溶融亜鉛めっき	２０
亜鉛溶射	２１
アルミ溶射	２２
鉛丹さび止めペイント１種	２３
鉛丹さび止めペイント２種	２４
鉛系さび止めペイント１種	２５
鉛系さび止めペイント２種	２６
亜酸化鉛さび止めペイント１種	２７
亜酸化鉛さび止めペイント２種	２８
塩基性クロム酸鉛さび止めペイント	２９
ジアミド鉛さび止めペイント１種	３１
ジアミド鉛さび止めペイント２種	３２
ジンクロメートさび止めペイント１種	３３
ジンクロメートさび止めペイント２種	３４
鉛酸カルシウム下塗り塗料	３５
塩化ゴム系下塗り塗料	４５
エポキシ樹脂下塗り塗料	４６
そ　の　他	５９

（U）中塗塗料C

(W) 上塗塗料C

上記（U）、（W）については、中塗り、上塗り塗料について該当するコードを記入する。

区　　分	コード
長油性フタル酸樹脂中塗り塗料	６１
長油性フタル酸樹脂上塗り塗料	８１
フェノール樹脂系Ｍ１０塗料	７１
エポキシ樹脂系Ｍ１０塗料	７２
アルミニウムペイント中塗り	６２
タールエポキシ樹脂塗料	７３
塩化ゴム中塗り塗料	６５
塩化ゴム上塗り塗料	８５
ポリウレタン樹脂用中塗り塗料	６６
ポリウレタン樹脂上塗り塗料	８６
フッソ樹脂用中塗り塗料	６７
フッソ樹脂上塗り塗料	８７
そ　の　他	９９

（Y）塗装方法C

塗装方法について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
ハケ塗り	1
エアレス	2
へ　　ラ	3
そ の 他	9

(AA) 清浄度C

清浄度について代表的なものを選定し、該当するコードを記入する。

区　　分（素地調製程度）	コード
１種　さび，旧塗膜を除去し、鋼面を	1

現して清浄にする。	
２種　　同上 ただし、くぼみ部分や狭隘部分にはさびや塗膜が残存す。	２
３種　塗膜劣化の著しい部分は、さび旧塗膜を除去して鋼面を現し活膜の部分は、粉化物，汚れを落として清浄にする。	３
４種　活膜上の粉化物，汚れを落として清浄にする。	４

(AC) 本体塗装面積（㎡）：◆

本体に対する再塗装面積を記入する。

(AD) 高欄塗装面積（㎡）：◆

高欄、防護柵に対する再塗装面積を記入する。

(AE) 塗装色

塗装色について代表的なものを選定し、日本塗装工業会の定めるコードを記入する。

（記入例）　　緑　　―――>　　Ａ１２－６３７

ライトグレー　―――>　　Ｈ１－１００３

(AF) 塗替え程度Ｃ

該当する径間（上部工）あるいは下部工の再塗装における塗替えの程度について、該当するコードを記入する。

区　　分	コード
全 部 塗 装	1
一 部 塗 装	2
そ　の　他	9

(AH) 塗装費用（百万円）

データ作成毎に該当する径間（上部工）あるいは下部工に対する再塗装の費用を記入する。

（記入例）　再塗装　１３２０万円　―――>　　１３

(AI) 塗装会社

塗装会社名を、１０文字以内の日本語で記入する。

〔Ｄ０３３〕 横 断 歩 道 橋 補 修 歴

この調査表は、横断歩道橋の補修履歴等に関するデータを登録するためのものである。

１．一般的注意事項

データは次の単位で作成する。

○　「D030横断歩道橋基本」の作成単位毎とする。

○　補修が行われた毎とする。

２．記入事項

（１）工事番号

（２）工事区分Ｃ

（３）施設対応番号

（Ｃ）地整Ｃ

（Ｄ）事務所Ｃ

（Ｅ）出張所Ｃ

（Ｆ）路線

（Ｇ）現旧区分Ｃ

（Ｇ－１）現旧区分

（Ｈ）整理番号１

（Ｉ）整理番号２

上記（１）、（２）、（３）、（Ｃ）、（Ｄ）、（Ｅ）、（Ｆ）、（Ｇ）、（Ｇ－１）、（Ｈ）、（Ｉ）の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（共通編），§1.共通注意事項」を参照のこと。

（Ｐ）補修年月

補修を行った年月を記入する。（年は西暦年で記入）

（記入例）　１９８５年１０月　―――>　１９８５１０

（Ｑ）補修内容Ｃ

補修内容について表－Ａの区分より該当するコードを記入する。

（Ｓ）備考

損傷原因等について、５０文字以内の日本語で記入する。

表－Ａ　補修内容コード

区　　分	コード
舗　装	
全体打替え	１０１
〃 オーバーレイ	１０２
部分打替え	１０３
〃 オーバーレイ	１０４
床　版	
全長打替え	１５１
〃 取替え	１５２
支間中間付近打替え	１５３
〃　取替え	１５４
支点付近打替え	１５５
〃　取替え	１５６
上部構造	
主桁・主構　局部的修復	２０１
〃　断面補強	２０２
〃　桁増設	２０３
〃　取替え	２０４
横桁・横構・対傾構	２０５
〃　局部的修復	２０６
〃　断面補強	２０７
〃　桁増設	２０８
〃　取替え	２０９
縦桁・床板　局部的修復	２１０
〃　断面補強	２１１
〃　桁増設	２１２
〃　取替え	２１３
下部構造（く体）	
橋台パラペット局部的修復	２５１
〃　断面補強	２５２
橋台前壁　局部的修復	２５３
〃　断面補強	２５４
橋台ウィング　局部的修復	２５５
〃　断面補強	２５６
橋脚梁　局部的断面	２５７
〃　断面補強	２５８
橋脚柱　局部的断面	２５９
〃　断面補強	２６０
下部構造（基礎）	
橋台　フーチング拡大	３０１
増　坑	３０２
根固め工	３０３
周辺地盤の改良	３０４
橋脚　フーチング拡大	３０５
増　坑	３０６
根固め工	３０７
周辺地盤の改良	３０８
昇降部（階等）	
〃　局部的修復	３５１
〃　取替え	３５２
〃　増設	３５３

区　　分	コード
支　承	
支承本体の取替え	４０１
付属部材の　〃	４０２
支承座コンクリートの修復	４０３
〃　打替え	４０４
支承座モルタルの修復	４０５
〃　打替え	４０６
伸縮装置	
伸縮装置本体の取替え	４５１
伸縮装置の修復	４５２
排水装置	
蓋の取替え	５０１
〃 修復	５０２
桝の取替え	５０３
〃 修復	５０４
排水管の取替え	５０５
〃　修復	５０６
高　欄	
高欄全長取替え	５５１
〃　修復	５５２
高欄部分取替え	５５３
〃　修復	５５４
塗　装	
主桁、主構等　全塗替え	６０１
〃　１部塗替え	６０２
横・縦桁、横構　全塗替え	６０３
〃　１部塗替え	６０４
床　版　全塗替え	６０５
〃　１部塗替え	６０６
支　承　全塗替え	６０７
〃　１部塗替え	６０８
伸縮継手　全塗替え	６０９
〃　１部塗替え	６１０
高　欄　全塗替え	６１１
〃　１部塗替え	６１２
階　段　全塗替え	６１３
〃　１部塗替え	６１４
上・下部工全体塗替	６１５
鋼製下部工塗替	６１６
目隠し板	
〃　取替え	６５１
〃　部分修復	６５２
裾隠し板	
〃　取替え	６５３
〃　部分修復	６５４
覆　網	
〃　取替え	６５５
〃　部分修復	６５６
手すり取付け	６５７
ロードヒーティング	
〃　取替え	６５８
〃　部分修復	６５９
消雪パイプ	
〃　取替え	７１０
〃　部分修復	７１１
その他	９９９

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D030：横断歩道橋（基本諸元）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
			全国版	中国版
	データ表現	単位	SYOGEN	SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分C	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整C	半角2文字			○
事務所C	半角2文字			○
出張所C	半角2文字			○
路線	9999		○	○
現旧区分C	半角1文字		○	○
整理番号１	半角8文字		○	○
整理番号２	半角4文字		○	○
整理番号３	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
名称	全角20文字		○	○
百米標自	999.9	ｋｍ	○	○
距離自	9999	m	○	○
百米標至	999.9	ｋｍ	○	○
距離至	9999	m	○	○
所在地	全角30文字		○	○
施設完成年度	999	和暦		○
施設改修年度	999	和暦	○	○
歩道橋種別C	半角1文字			○
昇降形式C	半角1文字		○	○
上部工構造形式C	半角2文字		○	○
上部工材料C	半角1文字		○	○
床版材料C	半角1文字		○	○
下部工形式C	半角2文字		○	○
基礎形式C	半角2文字		○	○
敷地協定有無C	半角1文字			○
完成年次	999	和暦	○	○
橋長	999.9	m	○	○
最大支間長	999.9	m		○
径間数	99			○
桁下高	99.9	m	○	○
幅員	99.9	m	○	○
橋面積	999.9	ｍ２		○
斜角	99	度		○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D030：横断歩道橋（基本諸元）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
			全国版	中国版
	データ表現	単位	SYOGEN	SYOGEN_0
適用示方書Ｃ	半角2文字		○	○
設計震度	9.99			○
排水形式Ｃ	半角1文字			○
本体塗装面積	99999.9	ｍ２	○	○
高欄塗装面積	99999.9	ｍ２	○	○
現場塗装面積	99999.9	ｍ２	○	○
塗装色	半角9文字		○	○
地覆幅	99	ｃｍ		○
地覆高さ	99	ｃｍ		○
高欄材質構造形式Ｃ	半角2文字			○
高欄高さ	9.99	ｃｍ		○
舗装種別Ｃ	半角1文字			○
舗装厚さ	99	ｃｍ		○
舗装面積	9999.9	ｍ２		○
伸縮継手型式Ｃ	半角2文字			○
沓固定Ｃ	半角2文字			○
沓可動Ｃ	半角2文字			○
落橋防止施設有無ａＣ	半角1文字			○
落橋防止施設有無ｂＣ	半角1文字			○
落橋防止施設有無ｃＣ	半角1文字			○
落橋防止施設有無ｄＣ	半角1文字			○
落橋防止施設有無ｅＣ	半角1文字			○
上屋有無Ｃ	半角1文字		○	○
手すりＣ	半角1文字			○
すべり止めＣ	半角1文字			○
目かくし板Ｃ	半角1文字			○
身障者用施設Ｃ	半角1文字			○
防犯施設Ｃ	半角1文字			○
エスカレータ有無Ｃ	半角1文字		○	○
エスカレータ基数	99		○	○
エスカレータ占用別Ｃ	半角1文字		○	○
エレベータ有無Ｃ	半角1文字		○	○
エレベータ基数	99		○	○
エレベータ占用別Ｃ	半角1文字		○	○
上屋占用物件別Ｃ	半角1文字		○	○
通学路指定有無Ｃ	半角1文字			○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D030：横断歩道橋（基本諸元）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
			全国版	中国版
	データ表現	単位	SYOGEN	SYOGEN_0
通学路指定年月日	19990101	西暦		○
管理協定有無Ｃ	半角1文字			○
協定年月日	19990101	西暦		○
協定先名	全角15文字			○
照明有無Ｃ	半角1文字			○
ロードヒート有無Ｃ	半角1文字			○
消雪パイプ有無Ｃ	半角1文字			○
備考	全角50文字			○
市区町村自Ｃ	半角5文字		○	○
市区町村至Ｃ	半角5文字		○	○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D032：横断歩道橋（塗装歴）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
			全国版	中国版
	データ表現	単位	SYOGEN	SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分Ｃ	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整Ｃ	半角2文字			○
事務所Ｃ	半角2文字			○
出張所Ｃ	半角2文字			○
路線	9999			○
現旧区分Ｃ	半角1文字			○
現旧区分	全角2文字			○
整理番号１	半角8文字		○	○
整理番号２	半角4文字		○	○
整理番号３	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
上下部工区分Ｃ	半角1文字			○
塗装年月	199901	西暦	○	○
下塗塗料Ｃ	半角2文字			○
中塗塗料Ｃ	半角2文字			○
上塗塗料Ｃ	半角2文字			○
塗装方法Ｃ	半角1文字			○
清浄度Ｃ	半角1文字			○
本体塗装面積	99999	ｍ２	○	○
高欄塗装面積	99999	ｍ２	○	○
塗装色	半角9文字			○
塗替え程度Ｃ	半角1文字			○
塗装費用	999999	百万円		○
塗装会社	全角10文字			○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D033：横断歩道橋（補修歴）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
			全国版	中国版
	データ表現	単位	SYOGEN	SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分Ｃ	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整Ｃ	半角2文字			○
事務所Ｃ	半角2文字			○
出張所Ｃ	半角2文字			○
路線	9999			○
現旧区分Ｃ	半角1文字			○
現旧区分	全角2文字			○
整理番号１	半角8文字			○
整理番号２	半角4文字			○
補修年月	199901	西暦		○
補修内容Ｃ	半角3文字			○
備考	全角50文字			○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照